

総務産業常任委員会委員長 岡田建二朗

1 伊那市における「地域おこし協力隊」「集落支援員」制度の取り組みについて

伊那市では、長谷・高遠地域のように過疎が懸念される地区への隊員・支援員の配置が多く、周辺部の活力創出や自治活動の維持が切実な課題であることを痛感した。

また、教育分野でも両制度の活用が進んでおり、常会長を一律に集落支援員としている箕輪町との違いが印象的だった。

2 起業したカフェの視察 リヤコーヒーにて

「卒隊後に何ができるか、何をしたいかを整理しながら起業の準備ができた。活動以外の時間の使い方を工夫し、協力隊員として完全燃焼しないことが大切」とのコメントが非常に参考になった。

全体を通じて

協力隊の募集方針がミッション型であるため、「地域の課題・行政のニーズ」と「応募者の関心・スキル」がマッチしやすいのではと推察する。行政規模が大きいとはいえ、40名前後の隊員・支援員をテーマ毎に配置し、サポートしていく事務局側のサポートも、事業の成否を左右する大きな要素だと感じた。運用の自由度が担保されていることから、伊那市でも「試行錯誤の段階」とのこと。

いずれにしても、”移住者の自己実現”と”地域の課題解決”的輪を上手にコーディネートできるかがカギだと感じた視察だった。